

## 佐世保中央エリア

宇久地域（離島）

### 概要及び特性

宇久地域は佐世保港から北西約60kmの五島列島最北部に位置しており、人口が約0.3万人、面積が約26.4km<sup>2</sup>、人口密度が98人/km<sup>2</sup>です。人口密度は、市平均（612人/km<sup>2</sup>）を大きく下回っています。公共交通機関は、佐世保港や博多港との定期航路便が唯一の手段となっており、佐世保港と宇久島間は、フェリーで約3時間かかります。

地域内は、宅地及び農地が多くを占めています。地域の中心部は、フェリーターミナルがある平地区と島西部に位置する神浦地区で、平地区には、宇久行政センターや宇久地区公民館が配置されています。

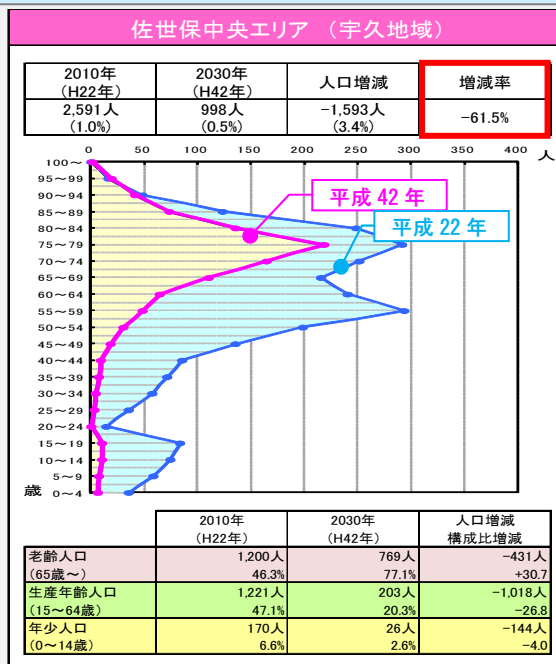
地域内の産業は、漁業や農業等、第一次産業が約28%を占めており、就業者の多くは、地域内で従事しています。また、日用品は地域内で購入しますが、買回り品は、佐世保中央地域等を利用しています。

### 人口変化

地域全体の人口は、この10年間で、約35%と大きく減少しています。（第1章P10参照）

今後の人口推計をみると、今後20年間で約62%減少と、現状の約4割の人口になることが予測されます。

人口構成をみると、全世代で減少し、20年後の高齢人口比率は約77%になると予測されます。



### 公共施設の配置状況及び整備状況

宇久地域の公共施設の配置状況は、フェリーターミナルがある平地区に集積しています。他には、神浦地区に小学校、保育所等を設置しています。また、その他の施設として陸上競技場や野球場等、スポーツ施設を設置しています。

#### 【整備状況】

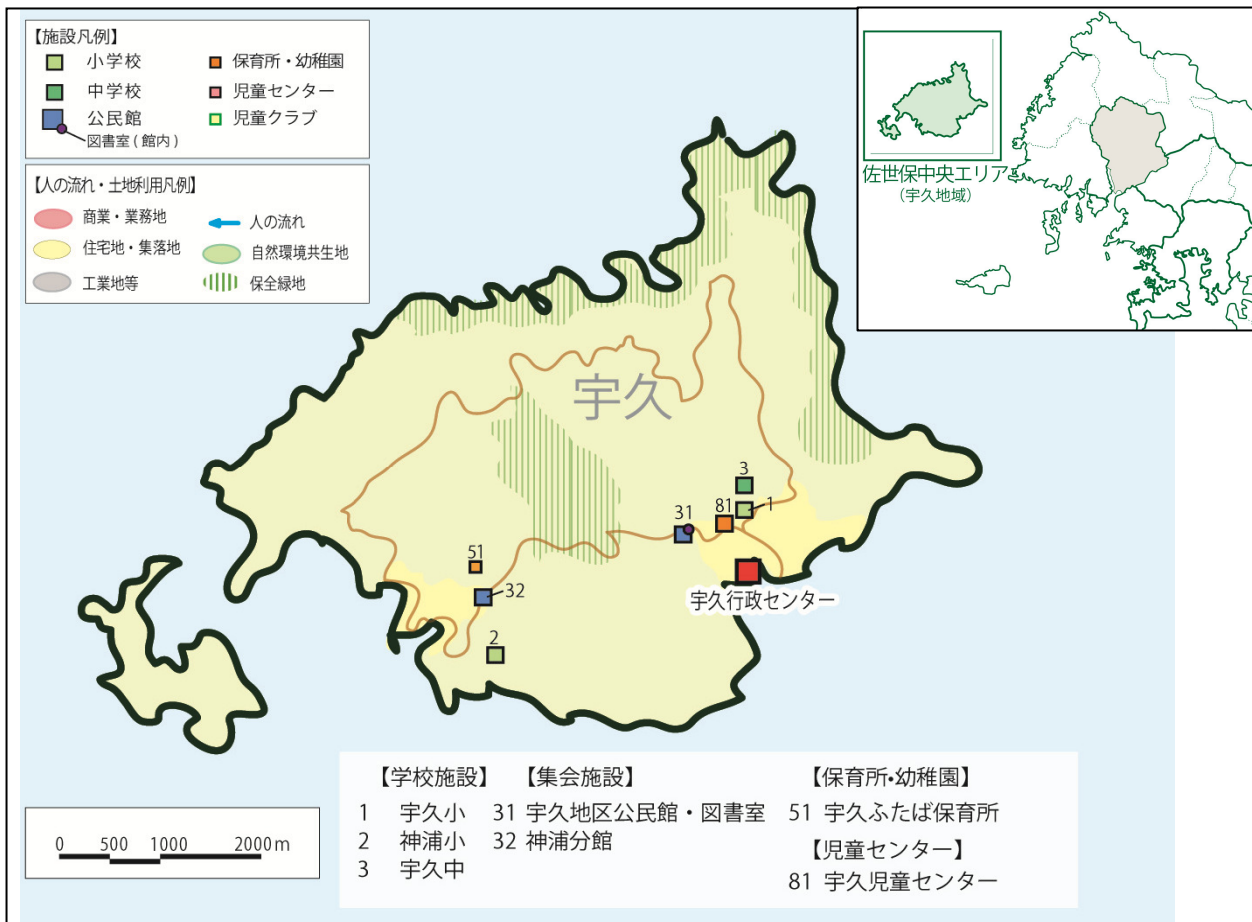
地域内の公共施設は延3.9万m<sup>2</sup>と、市全体の約3%を占めています。地域住民1人当たり14.9m<sup>2</sup>となっています。そのうち、学校教育系施設が約40%、行政系施設が約11%となっています。

築年別整備状況をみると、旧耐震基準の建物が約42%となっており、学校教育系施設及び行政系施設で老朽化が進んでいます。

図表 配置図（佐世保中央エリア（宇久地域））

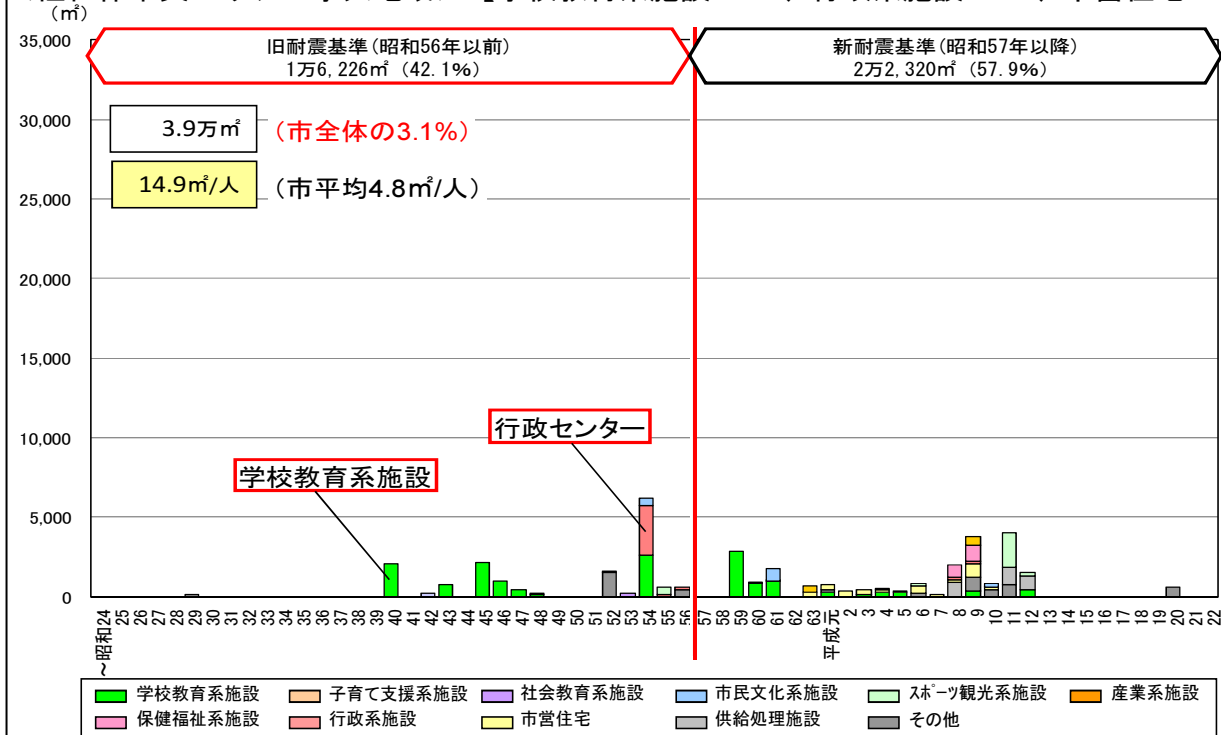
※配置図には主な施設を掲載しています。

※「人の流れ」は、都市計画マスタープランの都市軸等とは異なり、一般的な人の流れを示すものです。

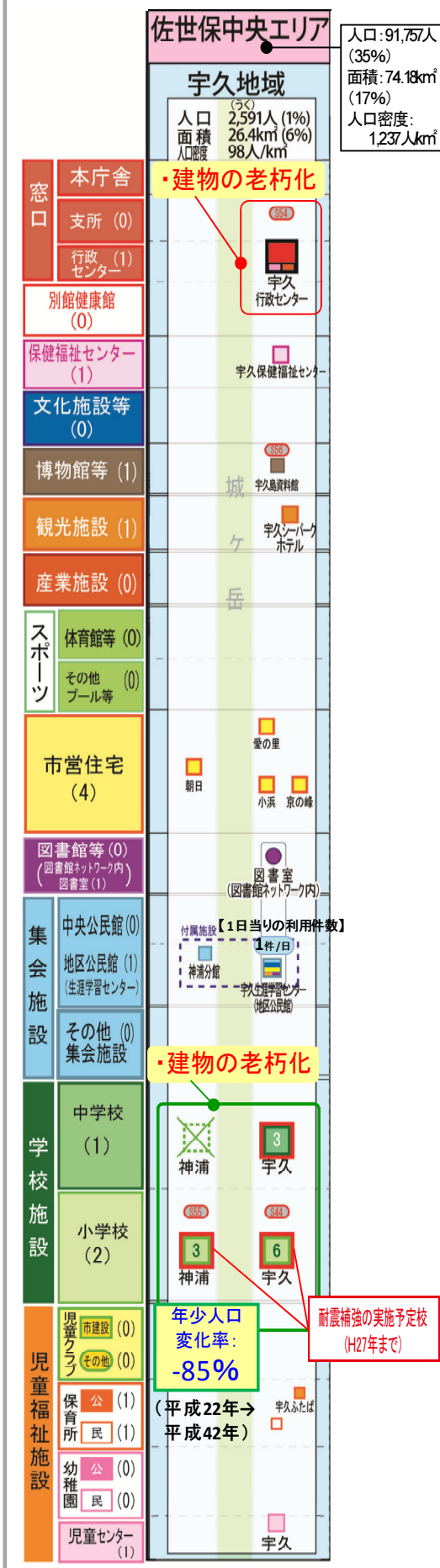


図表 築年別整備状況

<佐世保中央エリア：宇久地域> 【学校教育系施設 40%、行政系施設 11%、市営住宅 8%】



図表 地域実態マップ



主な公共施設の状況

【公民館・生涯学習センター】

公民館・生涯学習センターは宇久地区生涯学習センター1施設があります。今後、部屋ごとの稼働状況を的確に把握し、利用者ニーズを把握することが必要です。

【小学校・中学校】

学校施設は、小学校が2校、中学校が1校の計3校あります。このうち、平成27年度までに耐震化の実施を予定する学校が3校あります。

【行政センター】

宇久行政センター1施設が配置されています。宇久行政センターは、今後耐震化及び建替え又は大規模改修等の老朽化対策が必要となっています。また、旧町役場庁舎であることから、議場や議員控え室等の空きスペースがあります。

今後の検討の視点

【耐震化・老朽化への対応】

小学校・中学校施設、行政センター及び市営住宅等に対して、今後耐震化及び建替え又は大規模改修等の老朽化対策が必要となります。公共施設は、建物のライフサイクルを通じた効率化を検討するとともに、周辺の公共施設の老朽化状況等を踏まえた効率化を検討する必要があります。

【市民ニーズに応じた施設配置・整備への対応】

今後は、用途ごとのニーズを的確に把握し、利用状況を向上させると共に、そのニーズに応じて、地域全体での施設配置・整備を検討する必要があります。

【人口構成の変化等による施設の有効活用】

今後人口が約62%減少すると予測され、20年後には約1,000人になってしまうことを踏まえ、保有施設の効率的な施設整備や利用機能の見直しなどによる施設の有効活用を検討する必要があります。有効活用の方策としては、地域全体的な公共施設の老朽化状況を踏まえ、行政サービスの向上と効率化について、多様な方策の検討が求められます。